

＜映像１－１：ろう者によるＡ児（１：０１）への絵本読み聞かせ＞

- ① 読み手であるろう者は、しかけ絵本『いないいないばあ』を用いて、目のコミュニケーションに強い子どもの特性を生かして子どもの絵本に対する興味を引き出します。



- ② 絵本との距離やページのめくり方を調節して、子どもが自分からページをめくりたくなる意欲を引き出しています。

途中から子どもは自分でページをめくろうとしました。

- ③ 子どもとの視線共有を誘い、目が合ったときに、＜わんわん＞、＜ピョピョ＞など日本手話で意味を伝えています。

- ④ 子どもと視線を共有するために、日本手話の＜何かな？＞のNMMをたっぷり見せています。

○使用図書：『いないいないばあそび』きむらゆういち偕成社

＜映像１－２：ろう者によるＢ児（２：０２）への絵本読み聞かせ＞

- ① 読み手のろう者は、視線や指さしを使い、子どもの視線を絵本に誘導しています。



- ② 子どもの手をとってページを一緒にめくるなど、子どもが主体的に絵本を読もうとする意欲を引き出す工夫をしています。

- ③ 子どもと目があっているときに、繰り返し日本手話のNMMの口型＜pa＞を見せています。子どもがそのNMMを模倣したときには、同じNMMを表出して応え、子どもとの共感を大切にしたりやりとりを行っています。

- ④ 絵本の中のキャンディを取り出し、子どもに食べるよう伝え、子どももその意味を理解して応えています。このようにして、相互のやりとりが深まっていきます。

○使用図書：『きんぎょがにげた』五味太郎 福音館書店

＜映像 2：母親同士による子ども A 児 (1:07) と C 児 (1:08) への日本手話による語りかけ＞

- ① C 児が向かい合って座る A 児の補聴器を見つめていると、C 児の母親が子ども達の補聴器を指さしてから、＜同じ＞と表出をしました。C 児も＜同じ 同じ＞と日本手話で表出をしています。



- ② そのやりとりを見ていた A 児の母親が、C 児の補聴器を指さし、＜同じ＞と表出しました。C 児は、落ち着いて A 児の母親の顔を見つめています。
- ③ C 児が友だちの補聴器を見つめていることに気づいた母親が子どもの気持ちを察し、日本手話で代弁した場面でした。そのやりとりに A 児の母親も参加し、ふた組の親子が気持ちを共有できました。

＜映像 3：母親と B 児 (2:10) の絵本読み：日本手話と指文字の表出＞

- ① 母親は、ゆったりと子どものペースに合わせて一緒に絵本を読んでいます。
- ② 子どもは、絵本のひらがな「と」を指さした後、自分から指文字「と」を表出して、母親に見せています。母親は子どもの気持ちを受け取り、視覚的に子どもが理解できるように OK サインをしながら、「正解」と応答しています。
- ③ 子どもは、絵本のひらがな「が」を指さし、母親と目を合わせています。母親が指文字で「が」を表出するのを確認しています。子どもには「か」の手型の保持が、まだ難しく母親に表出してもらいたがったための行動と考えられる。
- ④ 子どもは、絵本のひらがな「さ」を指さしてから、指文字で「さ」を表出して母親に見せています。母親もひらがなと指文字が合致していることを視覚的に子どもに伝えています。
- ⑤ 子どもは、本文のひらがなをひとつずつ指さした後、絵の内容を日本手話で表出しています。母親も子どもと一緒に日本手話で読んでいます。
- ⑥ 「だるまさんがおならをした」絵から、母子で、＜くさいね＞と共感した後、子どもは、日本手話で＜うんち あそこ pt3 うんち トイレ だるまさん pt3 おなら トイレ あっち pt3＞と話している。（日本語訳：「うんちだから、あそこのトイレだね。だるまさんがおならしたよ。トイレはあっちだよ。」）
- ⑦ だるまさんの体が「びろーん」と伸びるページでは、子ども自ら、肩を開き、頭を下げて（日本手話の NMM、C L の要素が含まれる）だるまさんがとても長く伸びたことを話しています。母親も同じように表出をし、子どもの頭に触れながら、日本手話＜伸びた＞を表出して共感的なやりとりを行っています。



○使用図書：『だるまさんが』かがくい ひろし ブロンズ新社